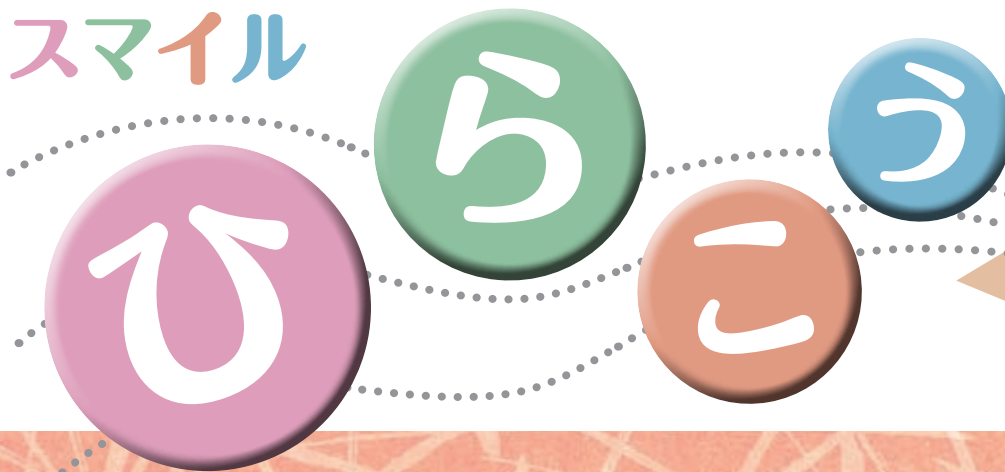


スマイル



2016

1



新年のご挨拶

放射線技師から②／連携医療機関紹介 vol.11／副院長のひとり言①／Information

新春

新年のご挨拶を申し上げます



枚方公済病院 院長
野原 隆司

新年あけましておめでとうございます。

昨年は医療情勢の厳しさと、病院における人財の重要性を強調したオープニングでした。光陰のごとく過ぎた1年で、総括的には社会医療環境改善も遅々たる状態でした。幸い当院では全スタッフの奮闘努力により、機能評価の認定病院指定を受け、さらには地域医療支援病院の資格を得ました。反面、今後の課題が露出し、努力目標も明瞭になりました。満足することなく、絶えざる努力を維持していきたいと考えています。国の医療課題でもありますが、当院の地域病院としての明確な性格づくりと医療活動が求められています。救急医療の更なる展開、ICU・CCUとの明確な導線、内科系、外科系各科のバックアップ、さらには充実した外科医療を展開したいと考えます。枚方公済病院の理念である、“医療への貢献と奉仕”を旗に、2017年に行われる第66回共済医学会の会頭としての自覚を高めていきたいと考えています。今年も熱いご支援のほどよろしく申し上げます。





地域医療連携室 室長
北口 勝司

新年あけましておめでとうございます。昨年9月から、地域医療連携室を田中満副院長から引き継いで、担当させて頂いております。今年から来年にかけて枚方公済病院は大きな転換期を迎えます。地域に貢献する急性期病院として、大きく三つ変わります。

まず第1に地域に開放された内科系 ER として、内科系で調子の悪い患者さんに対して可能な限り対応いたします。地域医療連携室としては、来院された患者さんの情報を普段のかかりつけの先生とやりとりを緊密にして、入院中の治療に反映させ、退院時にスムーズにかかりつけの先生に紹介できるよう間に入っていきます。

第2に ICU・CCU の施設拡充を目指します。より重症な患者さんにも対応していきたいと考えております。ただし、今まで通り認知症をもった誤嚥性肺炎の患者さんや心不全の患者さんにも、誠実に対応して参ります。

第3に平成29年4月より内科系後期研修医の制度が大きく変わることに対応して、基幹型内科研修病院として準備を始めております。地域で育て地域に貢献する内科専攻医を育てたいと考えております。自分の関心のある疾患だけでなく、内科系のすべての患者さんに平等に対応することは大事な技術と考えております。ガイドラインばかり振りかざすだけでなく、患者さんの家庭生活や社会生活に気を配り、かかりつけの開業医の先生の方針にも気を配れる医師を育てていきたいと思っております。

このような決意を持って新年を迎えております。先生方には本年もよろしくお願い申し上げます。今年の後半には、当院の外来患者さんを地域の開業医の先生のもとへ逆紹介していきたいと考えております。逆紹介する時は、前もって紹介状を郵送し受け入れ可能かお聞きしてから、患者さんに受診していただく予定です。詳細は後日お知らせします。何卒協力のほどお願い申し上げます。



地域医療連携室 副室長
退院支援室 室長
片岡 宏

このたび地域医療連携室の退院支援室長を仰せつかりました総合診療科の片岡です。

おかげさまで地域の医療機関から多数の患者様を紹介いただきながら連携室の業務も拡大、多様化し、業務の円滑化のために受け入れ窓口の部門と退院支援を目的とする部門が分別されたというご理解をいただければと思います。

当院の総合内科／総合診療科では高齢者を多く診療させていただいており疾患自体の改善後も、認知症、生活援助いただける家族関係、ADL 低下などの要因で、退院後の生活環境、社会的な居場所の調整にも多くの時間、労力を必要とします。

昨年 10 月からは退院後にお世話になる可能性のある施設など何力所か訪問、見学させていただいておりますが、各所で受け入れ可能となる条件や対応いただける範囲もいろいろで当方の退院前の調整、気配りもまだまだ不十分であると痛感しております。

院内、院外の地域の医院、施設、病院の先生方にも至らぬことばかりでご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室 事務課長代理

中村 輝之 (前列右から 2 人目)



新年明けましておめでとうございます。旧年中は地域の先生方には大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 27 年 7 月より地域医療連携室に異動してきましたが、気がつけば半年も経っており時の過ぎ行く早さに驚いています。その一番の理由は地域医療支援病院の指定を受けるための準備でした。かなり大変な作業でしたが、院外では北河内医療圏の各種医療関係団体の皆様のお力添えを頂き、院内では部署の垣根を越えて全職員一丸となり様々な資料作成にあたった結果、平成 27 年 11 月大阪府より指定を受けることが出来ました。本当にありがとうございました。

話は変わりますが、「一年の計は元旦にあり」ということで 1 つ目標を記載させて頂きたいと思います。私事ではありますが、年齢と共に体重（現在 80kg）も増えておりよく院長からも「歩きなさい」とアドバイスを受けている状態です。そこで目標をダイエットとし、来年のご挨拶にて何 kg に減少したかご報告したいと思います。

最後になりますが、本年も地域の先生方と顔の見える連携を目標に、より一層努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

タレントの北斗晶さんが乳がんを公表されたことで、マンモグラフィの重要性と正しく撮影する精度が求められることが広く認識されたと思います。

昨年の11月では、マンモグラフィについて掲載させて頂きましたが、今回はX線写真の『デジタル化（フィルムレス化）』についてです。

近年の電子化にともないレントゲン写真もデジタル化へと移行してきています。

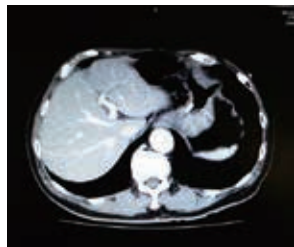
解像度の点では一般撮影においてフィルムを使用したアナログ画像は数10ミクロン、デジタル画像では100ミクロンとフィルムがデジタルを軽く凌駕し、デジタル画像は液晶モニターによる観察となるためモニターによってはさらに差がつくものではありません。

しかしながら、診断に不足ないこと、劇薬の現像液、廃液処理を必要としないこと、明室処理可能で暗室やフィルムストック、記録にスペースがいらす、運搬、保管についても管理しやすいことが大きな利点としてあげられます。解像度が優先されるマンモグラフィでは高精細モニターであることが求められている様にデジタル化に向け大容量のサーバーの設置、雷撃、停電に弱いなど乗り越えなければならない課題もあります。

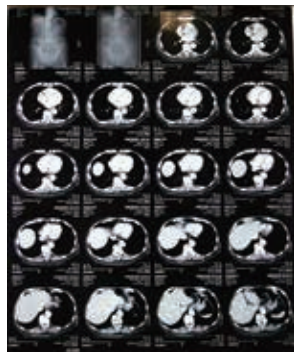
X線撮影でのデジタル化が急速に普及したのは20年前の阪神淡路大震災のころからであったかと思います。

当時、倒壊を逃れた病院でも激しい揺れにより水道、電気、ガスといったライフラインが切断されたが比較的早い段階で復旧した電気によりレントゲン撮影は可能となるも、水道の復旧に時間がかかった為に水が必要であり、下水も使用できないために排水もままならない自動現像機は稼働させられず、稼働できても地震の大きな揺れにより定着液が現像液に混じってしまい現像液を一旦すべて廃棄し新たに作り直すことを余儀なくされたが流通の停滞のため、なかなか思うようにならず歯がゆい思いをした技師もいらしたようです。

そんな中、災害時でも復帰のはやい電気を利用して給排水を必要としないドライプリンタと言うフィルムへの転写方法を用いたものが重宝され、記録、保管、管理に



PC画像



フィルム画像

すぐれた画像の電子化の波はその後のIT革命、ネットワークの発展にともない急速に発展し、今や遠隔での画像診断にまで至っています。

現在当院では医師の希望によりフィルムに画像記録させることもあります。歯科でのデンタル撮影以外はすべてデジタル化されておりサーバーに保管され必要に応じてCD、DVDなどメディアに画像を転写でき、医院様からの検査依頼や患者情報提供の際に添付させていただいています。その画像CDは、CTやMRI検査で半切サイズに複数コマフィルムにプリントされたものよりも、1画像ずつモニターに表示でき、観察者自身の操作で拡大や濃淡などができるので見たい状態に調整できる簡易DICOMビューワー機能を備えております。

ドライプリンタの老朽化と部品供給の途絶、フィルムメーカーのフィルム供給の廃止などにより、将来的にフィルムでの出力が不可能となり、検査結果など、すべてCDによる画像添付に移行させて頂くことになると予想されます。

最後に、医院様からの検査のご依頼に添えずお叱りをうけることもあります。放射線科技師一同、真摯に受け止め可能な限りご希望に沿った画像提供出来る様努力してまいります。

画像CD操作に不明な点、ご質問などありましたらお気軽にお訊ね下さい。よろしく申し上げます。

【追伸】

水害、地震、噴火など災害が多発している昨今、被災者および関係者様の心痛お察しします。あらためて災害に対する訓練の必要性を感じずにはられません。



診療放射線技師
加藤 丈佳



画像サーバー



ドライプリンタ

藤井医院

いつもお世話になりありがとうございます。

特にお手伝いさせて頂いています特養の患者さんでは、終末期であれいろんな段階の患者さんが多くの科でお世話になり感謝しています。

開業時(昭和48年)に現在のような救急時の医療体制はなく、逆に開業間もない頃消防署より時間外の協力依頼がありいろいろ経験しました。ホーム炬燵に家庭用ガス管からゴムホースを引き込み自殺していた人。元日に暖房用に練炭火鉢を部屋に入れ一酸化炭素中毒にて事故死されていた老夫婦。タイマーにリード線をつなぎセロテープで左胸と背中にはり感電自殺していた男子高校生(遺書には「同級生を葬儀に呼ばないで欲しい」と書かれていたそうです。いじめでもあったのでしょうか?)。ソファーに座り首にネクタイで亡くなっていた人。夫婦二人暮らして奥さんが帰宅して発見。ネクタイの結び方が普通でなく、他人が侵入した気配もない、自分で結んだか他人が結んだかの違いは法医で習ったのですが後は警察へ。やはり自分でゆるまないような結び方で締め上げての自殺でした。

印象に残っている症例では錐体外路症状の患者さんがいます。

消防署からの要請で患者さん宅に行くこと、顔面はゆがみ、腕、指が固縮している女子高生。てんかん?を疑い既往を聞くも「ない」とのこと。只2日前より風邪気味で嘔気がある前医より薬をもらい服用中とのこと。薬を見ると抗生剤とプリンペラン(メトロプロライド)が出ていました。今まで見たこともない状態に後者の薬の副作用を疑い、教室の教授の教え「前医を責めてはいけない」が頭をよぎり、ご家族に「風邪ウイルスが神経に入ったようです」とムンテラ。強ミノCを静注し服薬中止と飲めたら水分を多く飲ませて下さいと指示して帰宅。添付書に副作用として錐体外路症状あり、教授の教え「患者さんが教科書である」を体験した時でした。翌日回復したとの電話にほっとしました。

下手の横好きで鉄道模型、ラジコン、アマチュア無線、写真撮影、ゴルフと手を染めてきましたが今はサイクリングを楽しんでいます。

木津川、宇治川、桂川がハ幡で合流。整備された各堤防上のサイクリングロードを、奈良泉大橋手前、宇治観月橋、嵐山渡月橋、淀川は城北公園まで若い人は勿論同年代らしい人にも追い越されながらのんびり走っています。

今後とも宜しくお願いいたします。



藤井医院 院長 藤井 正徳先生

所在地: 〒573-0151

大阪府枚方市藤阪北町 28-3

☎ 072-855-3388

診療科目: 内科、小児科、皮膚科

連携医療機関紹介



このコーナーでは連携医の先生方をご紹介します。

山手中央診療所

☑ 開業のきっかけ

平成3年 父の後を継いで開業。平成9年 松井山手に移転しました。

☑ 毎日の診療に心がけていること

ゆっくりと患者さんの話を聞き、丁寧に診る、納得されるように説明する、を心掛けています。結論だけをお伝えして終わり、ということがないようにしたいです。

☑ 趣味

春はゴルフ、夏は鮎の友釣り、秋はゴルフ、冬は囲碁と楽しんでいます。

☑ 枚方公済病院について

最近知名度が上がってきていると思います。患者さんのほうから公済病院を紹介してくださいと言われることも多くなりました。ハードソフト両面から、患者さん本位の診療に努力しておられるからであろうと思います。

これからも親しみやすく、安心して医療が受けられる病院であってほしいと願っています。



山手中央診療所 院長 福田 雅武先生

所在地: 〒610-0354

京都府京田辺市山手南 1-3-1

☎ 0774-64-0770

診療科目: 内科、外科



枚方公済病院 副院長
田中 満

新年明けましておめでとうございます。昨年に引き続き今年もこのコラムにお付き合い願いたいと存じます。昨年は当院にとり大きな節目の年になりました。節目とは一つ目に9月に日本医療機能評価機構から一般病院2の認定を受けたことです。初めての受審で準備が大変でしたが、職員が自分たちの病院のシステムを客観的に見直す良いきっかけになりました。二つ目は11月に若干の宿題が課せられましたが、念願の地域医療支援病院に大阪府から指定されたことです。指定の条件をクリアするためにいろいろ苦勞しましたが、最後は北河内医療圏の各種医療関係団体の皆様の強力なお力添えを頂きようやく審査をパスすることができました。お世話になった方々に改めて御礼申し上げます。さて節といえば竹を思い浮かべますが、図鑑で調べると竹はイネ科だそうです。ちょっと稲と竹のイメージが結びつきにくく意外でした。竹は繁殖力が強く地下茎を伸ばして増えていきます。今年は節目を越えて竹のように枚方の地元に根を伸ばし地域医療の中核として発展していきたいと考えております。まだまだ医療界にとっては逆風が吹いているようですが、当院は今年一年皆様方と手を取り合って共に頑張っていきたいと思っております。どうか今年もよろしくお願いいたします。

理念と基本方針

理念
医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

Information

● 第7回 京阪奈循環器フォーラム

10月10日(土) 第7回 京阪奈循環器フォーラムを開催しました。【参加者 38名】



● 第1回 地域連携症例検討会

11月18日(水) 第1回 地域連携症例検討会を開催しました。【参加者 70名】



編集後記

新年おめでとうございます。旧年中は当院の医療活動に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、長かった秋が終わり、本格的な冬の寒さが身に染みる季節となりましたが、皆様にはいかにお過ごしでしょうか。本年は「申(サル)年」ですね。「申」は、干支の十二支の中で9番目にあたりその意味は、「伸ばす」で、草木が十分に伸びきった時期で実が成熟して香りと味がそなわり固く殻におおわれていく時期を言うそうです。また、「申(サル)」が「去る」を意味し、「悪いことが去る」など、いいことや幸せがやってくるという年との一説もあるそうです。

皆様にとって、申年である本年のご活躍が草木の如く実を熟し、ご多幸でありますよう心よりお祈り申し上げます。

退院支援室 酒巻 美紗



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<http://kkh-hirakoh.org/>